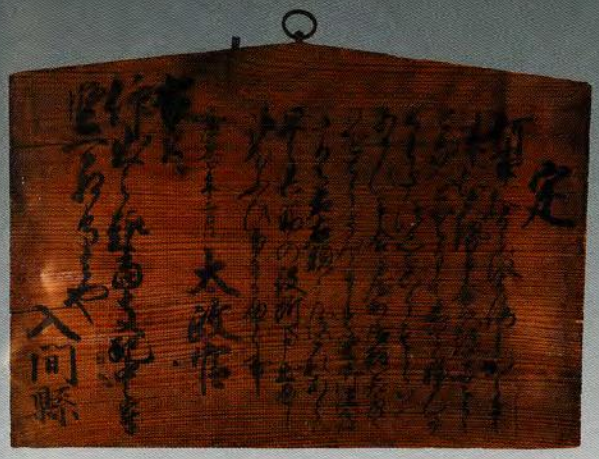
川越市立博物館

# 博物館だより

第55号



「第二札」

「第五札」

定

何事によらずよろしからざる
事に大勢申合候をとうと
となへ、ととうしていてねがひ事
くわだつるをこうそといひ、
あるひハ申合せ居町村をたちのき
候をてうさんと申す、堅御法度
たり、若右類之儀これあらハ
早々其筋の役所へ申出べし、
御ほふび下さるべく事
慶応四年三月　太政官
右被
仰出候趣当支配中之輩
堅可相守者也
入間県

覚

王政御一新ニ付ては、速ニ天下御平定
万民安堵ニ至り、諸民其所を得候様
御須臾被為在候ニ付、此折柄天下浮浪之
者有之様ニては不相済候、自然今日之
形勢を窺ひ、猥りニ士民とも本国を
脱走いたし候儀堅く被差留候、万一
脱国之者有之不埒之所業いたし候
節は、主宰之者落度たるへく候、
尤此御時節ニ付、無上下
皇国之御為又ハ主家之為等存込
建言いたし候者は、言路を開キ公正之
心を以其旨趣を尽くさせ、依願太政官
代へも可申出被
仰出候事、
但今後総て士奉公人ハ不及申、農商奉公人ニ
至る迄相抱候節ハ、出処篤と相糺し可申、自然
脱走之者相抱へ、不埒出来御厄害ニ立至り候節は、
其主人之落度たるへく候事
三月　太政官
右被
仰出候趣当支配中之輩
堅可相守者也
川越知事

## 「五榜（ごぼう）の掲示」第二札と第五札

明治新政府は、慶応４年(1868)3月15日に太政官（だじょうかん）(新政府の最高官庁)布告をもって、江戸幕府の高札の撤去と、五枚の新たな高札の掲示を命じました。これが「五榜の掲示」または「五条の高札」と呼ばれるもので、国民が遵守すべき事柄を高札という伝達手段で公布したものです。「五榜の掲示」の主な内容は、次のようなものでした。その第一札は国民に儒教の五倫（ごりん）の道を奨励するもの、第二札は徒党（ととう）・強訴（ごうそ）・逃散（ちょうさん）の禁止を、第三札は切支丹の禁止を掲げています。また、第四札では外国人に危害を加えることの禁止、第五札では士民の本国脱出の禁止などを記しています。太政官布告では、このうち「定（さだめ）」で始まる第一・二・三札を定三札として永年掲示を命じ、「覚（おぼえ）」で始まる第四・五札は覚札として一時的な掲示としました。

図版に掲げた二枚の高札は、「五榜の掲示」のうちの第二札と第五札にあたるものです。これらの高札には、本文の後に「右被仰出之趣当支配中之輩堅可相守者也」の文言と「川越知事」及び「入間県」の署名があります。「川越知事」は、明治２年(1869)6月の版籍奉還により、それまでの藩主が知藩事に任命されていることから、川越藩知事のことと考えられます。官職名である「知藩事」は、個別の任地に続けて呼ぶ場合は「川越藩知事」というように呼んでいました。また「入間県」は、明治4年(1871)11月に成立した川越地方を含む行政組織です。このことから、明治時代初期にめまぐるしく変遷した地方行政組織では、その都度高札を書替えて区域内に掲示していたことが窺えます。

『埼玉県史料叢書６(上)入間・熊谷県史料一』(平成20年　埼玉県刊）によれば、川越藩では明治２年７月21日に高札書替えのため、高札を持参すべきことを村々に命じ、その後新規高札を渡しています。また入間県では、明治５年(1872)正月にそれまでの県名で掲示していた高札の書替えのため、その提出を命じています。こうした高札制度は、法令公布の方式としてはもはや時勢に適さないとの判断から、明治６年(1873)２月24日の布告によりすべて廃止されました。

# 本丸御殿を復元する

## ―古絵図を用いた等角投影図の作成―

川越城本丸御殿は江戸時代末期、嘉永元年(1848)に竣工し、江戸幕府倒壊後順次解体され、その後入間県庁として利用された玄関部分のみが残りました。建築当初の本丸御殿の姿を伝える資料は、残念ながら現在のところありません。博物館では平成20年度からはじまった川越城本丸御殿保存修理工事に関連し、その事前調査として絵図などの資料を見たり、市民のみなさんから古い写真をお寄せいただくなどをしてきましたが、その全貌は杳としてわからないのが現状です。

現在知られている江戸時代末期の川越城について記された資料を挙げてみましょう。

① 川越城図（川越市立中央図書館蔵：1868）

佐久間家旧蔵の資料で、慶応3年(1868)の大和守家から周防守家への引継ぎのため、慶応2年頃に作成されたと考えられている。本丸御殿は墨線で外形のみが描かれており、他の衆番所などと同様に、この図においては建物が墨線のみで表現する手法が採られている。

② 武蔵国川越城図（川越市立中央図書館蔵：1868）

同図書館松平周防守家文庫に所蔵されたもので、①と同様の内容が記されている。本丸御殿は墨線とその内側に薄桃色の塗りで表現されており、他の衆番所などと同様に、この図においては建物が墨線と彩色で表現する手法が採られている。

③ 川越城本丸旧御本殿平面図（川越市立中央図書館蔵：1850年代後半）

川越市立図書館(現川越市立中央図書館)に伝わっていたもので、書かれた年代は不明だが、間取りは④・⑤と共通する部分が多いため、同時期以降のものと考えられる。但し、南側「中奥」部分の間取りがやや異なるため、最終形である④・⑤の前段階で、このような状態があった可能性も考えておきたい。縮尺は1/300で、彩色されているが、柱や間仕切・畳数などは省略されている。

④ 本丸住居絵図（舩津的美氏蔵）

川越藩御用絵師だった舩津家所蔵の平面図で、「杉戸」設置箇所に朱書で番付が付されているため、本丸御殿築造の際に絵師舩津蘭山に杉戸絵を発注するための図面と考えられる。⑤に似るが、書院東側に能舞台が描かれている点や便所の位置などが異なる。

⑤ 本丸住居絵図（光西寺蔵：第4図）

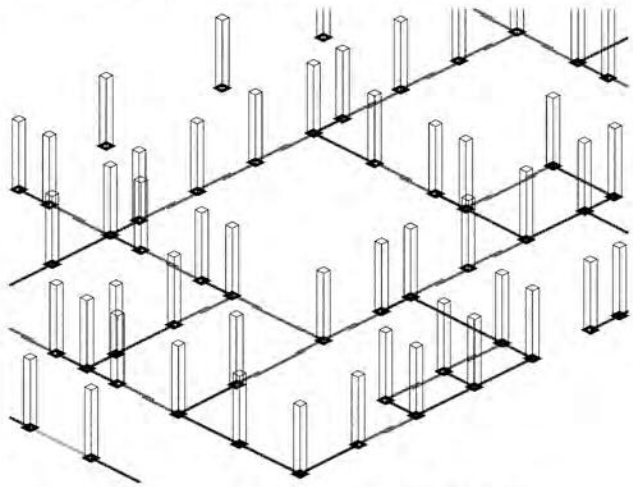
松平周防守家伝来の平面図で、④に似る。本丸御殿全体の詳細な実測図で、縮尺は1/100。大和守家から周防守家への引継ぎ用と考えられる。

これらのうち、①・②・⑤は大和守家から周防守家への引継ぎのための図面と考えられ、ほぼ同時期のものとすることができます。また、①～⑤を見ると、現在の本丸御殿が玄関と広間部分にあたり、その南側に「書院」が連続して建てられていることがわかります。

では、建築当初の本丸御殿がどのようなものであったかを考えてみましょう。建っている状態の資料がないため、今回は平面図から等角投影図の作成を試みました。等角投影図とは間取りがわかるように、やや斜めから見たように描かれた図で、これによって、本丸御殿の内部の状況を立体的に表現しようと考えました。

本丸御殿の平面図は冒頭で記したとおり、③・④・⑤の3点ありますが、今回は当初の状態を記したと考えられる⑤をベースとしました。平面図からの復元の場合、屋根を含む柱より上の構造は表現されていないため、復元することは困難です。そこで、上屋構造を諦めて、間取りの復元をしてみました。作業はパソコンの描画ソフト（Adobe Illustrator CS）を用いておこないました。建築の図面はいわゆるCADを利用するのが一般的ですが、当館のパソコンにインストールされていないことと何より筆者自身が使えないため、使用していません。

作業は、⑤の資料をデータ化することからはじめました。⑤の原資料は1,308mm×1,700mmという巨大なものですので、以前企画展の図録に使用するために撮



第1図　平面図に柱を立てる(描く)

影した4×5判の写真を使用しました。この写真をスキャナで取り込み、画像データ化したものを描画ソフトでトレースしました。しかし、写真はレンズの特性で周辺部が歪んだり、資料の折り目が完全に伸びていないなどでかなり補正する必要がありました。そこで、建物の基準尺をもとにグリッドメッシュを作り、その上に柱を写し取ることで、正確な平面図を作ることにしました。基準尺は建物ごとに6.5尺、6.3尺、6尺が使い分けられていますので、柱間が異なることが判明した場合、他の基準尺を充てて妥当な尺を採用しました。こうして、理論上で正確な本丸御殿の平面図が完成しました。

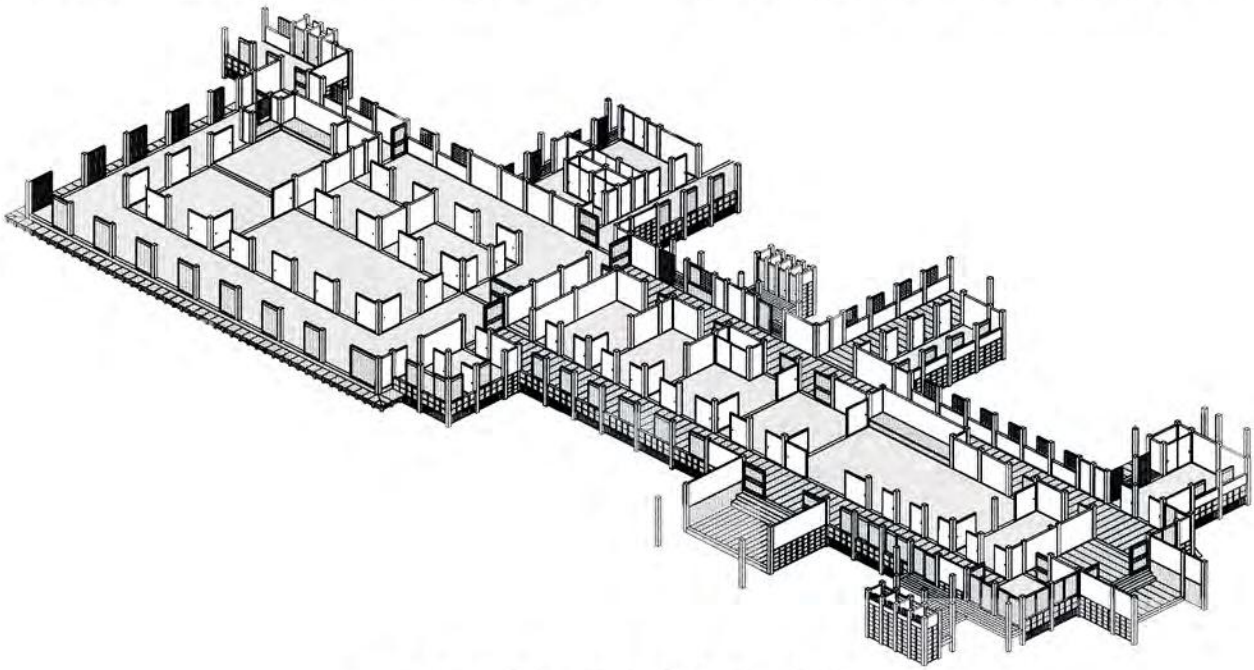
次に、内部の様子を見せるためには立体的にしなければなりません。今回は「等軸投影」という図で表現するために、平面図を45度回転させ、図面の上下方向を66.66%に縮小しました。これで、各辺は30度傾いた状態になります。次に柱のマークの上に柱を建てるわけですが、建具の状況を見せるため、鴨居を除いた状態にしたいので、6尺≒1.818mの高さにしました。もっとも全ての建具の高さが同じとは限りませんので、あくまでも便宜的な処置です(第1図)。床下についても、現在の本丸御殿の床高から、便宜的に2尺≒0.606mとしました。あとは壁・建具等を平面図のとおりに挿入しましたが、図には建具の種類は書かれていませんので、基本的に外に面した窓は板戸2枚+障子1枚、小書院などのように戸袋のあるものは障子2枚としました。内部では、廊下の仕切りは板戸、居室は襖、外から採光できそうな部分は障子としました。また、外壁や解体されて痕跡のない外便所などについては、現在の本丸御殿や江戸城本丸御殿の復元模型などの例を参考にしながらデザインしました。床については、平面図に板が描かれている部分は板敷きに、板でない部分は基本的に畳敷きとしました。実際には家老詰所のように畳廊下の例もあるため、そのまま表現しました。その結果が第2図及び第3図です。紙面の関係で詳細は見えないかもしれませんが、圧倒的な部屋数には驚かれると思います。

**結び**

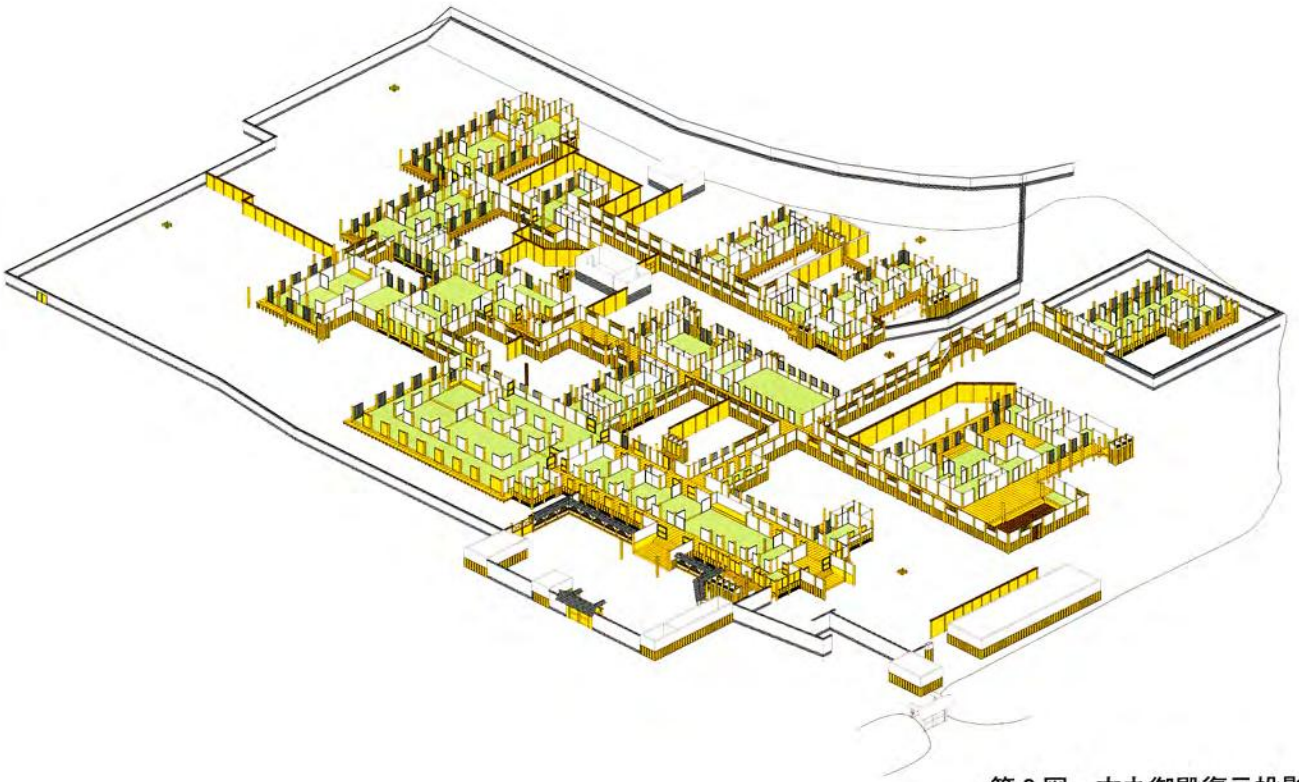
今回の作業を通じて、いくつかわかったことがあります。

一つは、連続した建物でありながら、建物の基準尺が異なることです。玄関・書院など外部の者が入る建物は1間=6.5尺、城主の居宅である中奥は1間=6.3尺、それ以外の奥向、家老詰所などは柱間=6尺になっていました。これは平面図から柱を写し取る段階で、一つのグリッドメッシュでは合わないことからわかりました。

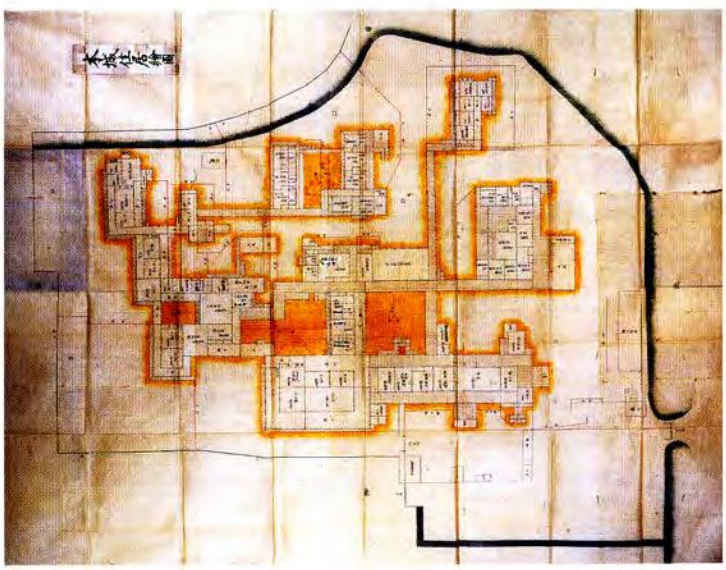
また、本丸御殿への人の出入りの方向を考えることができました。当時の本丸御殿への出入口は大小合わせて8箇所ありました。現存する正面玄関は「番所」や「御鷹部屋」などの建物と土塀に囲まれ、中央に四脚門を配した閉鎖的な空間になっているため賓客のための玄関と考えられ、日常的に使用されることはなか



**第2図　玄関・広間及び書院部分投影図**



第３図　本丸御殿復元投影図




第４図　本丸住居絵図（光西寺蔵）

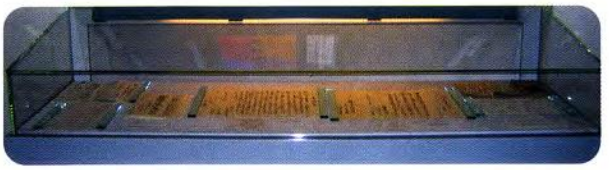
ったと思われます。他の者は正面の門の北側の部分から塀の中に入り、玄関部分とその西側にある「御料理所」のある建物の西側を回って、裏に入りました。裏には家老詰所への長い渡廊下がありましたが、通路部分が高くなっており、ここを潜って家臣たちは「御時計の間」付近から入ったと考えられます。また、城主は中奥付近の玄関から入っていたと思われ、奥向にはさらに別の出入口が設けられていることから、玄関ごとに入る者が異なっていたようです。これらのことは平面図を熟覧すれば理解できることではありますが、実際にこの作業を行い、立体的な絵になったことで、容易に看取できるようになったと思われます。

本丸御殿は二の丸御殿焼失によって、急きょ造営された建物ですが、17万石の大名の格式に相応しい御殿として、十分な規模と施設を持った建物とすることができます。現在は玄関部分が残るのみですが、今後の修理の際の調査の成果を踏まえて、本丸御殿の壮大な建物を具体化する作業を続けていきたいと思います。

（教育普及担当　天ヶ嶋岳）

# 同好会の御紹介

博物館では4つの同好会が活動しています。同好会の皆さんには、会での日頃の活動の他に、博物館事業にも御協力いただいています。今回は簡単ではありますが、それぞれの同好会について紹介したいと思います。



## 川越縄文土器の会（会員15名）

年２回春と秋に博物館の体験学習室で製作会を、また土器の野焼きを１～２回(毛呂山町の歴史民俗資料館の庭で)行っています。そして、年１回土器作りの資料集めと本物の土器を見る見学旅行を行っています。

## 古文書同好会（会員18名）

これまでは舟運関係の文書を解読していましたが、今は喜多町の名主さん宅にあった文政７年(1824)以降の御用日記の解読を行っています。興味をお持ちの方、ぜひ一緒に古文書を読んでみませんか。

## 華の会（会員19名）

博物館で裂織体験のボランティアをしながら、染め・織り・織った布での小物作り等の活動を続けています。体験は、基本的に毎週火・水曜日の13時～15時まで行っています。

## 川越唐桟手織りの会（会員34名）

毎週木曜日10時～15時まで活動しています。その他に土・日曜日10時～15時まで(12時～13時を除く)織り体験のボランティア活動をしています。日頃は、白糸から染めて、１反の反物になるまでの作業をしています。織りの体験にお出掛けください。

写真は前回の文化祭の様子です。

活動日は変更になる可能性があります。見学や織り体験を御希望の際は、事前に博物館までお問い合わせください。

博物館では、日頃の同好会の皆さんの活動を知ることができる展示や体験活動を、11月29日から12月７日まで博物館文化祭として開催いたしました。

# 土曜体験教室

当館では、毎月第２・３土曜日を中心に「土曜体験教室」を実施しています。当初は月に１回の開催でしたが、学校が完全週５日制になった平成14年度からは、現行の月２回（８月を除く）に増やし実施しています。この体験教室のねらいは、体験を通して川越の歴史や文化に対する興味・関心を育てるとともに、博物館という社会教育施設への積極的な参加を促し生涯学習の基礎を培おうとするものです。

今年度も、どの子どもたちにも１時間半の体験時間の中で、達成感と充実感を十分に味わってもらえるようなプログラムを年度当初計画しています。事前申込み制と当日直接来館して参加するものがありますが、プログラムによっては申込み当日の僅かな時間で定員になってしまい、お断りをしなくてはならないものもあり申し訳なく思っています。毎年ご好評をいただいているプログラムと、新企画のプログラムを併せて22の内容があります。その中のいくつかを紹介したいと思います。

**土曜体験教室**

～楽しい体験がいっぱいです。～
＜午前の部＞　午前10時～11時30分
＜午後の部＞　午後1時30分～3時30分
（☆は、電話やファクスでの申込み開始日です。）

| 実施日 | 内　　容 |
|---|---|
| 4月19日 | 火おこし体験　（当日先着） |
| 4月26日 | 博物館・本丸御殿のウラ探検（☆4/2~） |
| 5月10日 | あいぞめでハンカチ作り　（☆5/1~） |
| 5月24日 | よろいを着て武士の世界へタイムスリップ　（☆5/3~） |
| 6月14日 | あいぞめでハンカチ作り　（☆6/4~） |
| 6月21日 | 縄文土器ドキ体験　（当日先着） |
| 7月5日 | 七夕飾りを作ろう　（当日先着） |
| 7月19日 | 手作りうちわで夏休み　（☆7/1~） |
| 9月13日 15:00～17:00 | 十五夜の話とお月見だんご作り　※午後のみ　（☆9/2~） |
| 9月20日 | 川越まつりの山車作り　（☆9/4~） |
| 10月11日 | 和楽器体験～三味線・琴に挑戦～　※会場　本丸御殿　（☆10/1~） |
| 10月25日 | 昔の土笛・土鈴作り　（☆10/3~） |
| 11月8日 | かごをかついでホイサッサ　（当日先着） |
| 11月15日 | 手作りおもちゃで遊ぼう　（当日先着） |
| 12月13日 | たこを作ろう　（☆12/1~） |
| 12月20日 | お正月飾りを作ろう　（☆12/2~） |
| 1月17日 | まゆ玉飾りを作ろう　（☆1/6~） |
| 1月24日 | 昔の消防体験　（当日先着） |
| 2月14日 | 昔の道具を使ってみよう　（当日先着） |
| 2月21日 | おひなさまを作ろう　（☆2/3~） |
| 3月14日 | 和紙作りに挑戦　（☆3/1~） |
| 3月21日 | 本丸御殿ただいま修理中～工事の現場をのぞいてみよう～（☆3/3~） |

## －博物館・本丸御殿のウラ探検－

昨年度から始めたプログラムです。普段は見ることのできない博物館のバックヤード（スタジオ、一般収蔵庫等）や、分館である川越城本丸御殿の天井裏や床下を見るものです。博物館への理解を深めるとともに、文化財に対する興味・関心を高めてもらうものでした。さらに来年の３月には第２弾として「本丸御殿ただいま工事中～工事の現場をのぞいてみよう～」を予定しています。

## －縄文土器ドキ体験－

館で収蔵している縄文土器の実物の観察や破片を活用した文様の拓本標本の製作、縄文時代の衣装や石斧の観察をそれぞれ体験します。実施時期を１学期のバスを利用した博物館活用が終了する６月下旬に設定し、小・中学校の社会科の歴史学習の最初の小単元との関連性をより強めるようにしました。

## －手作りうちわで夏休み－

今年度の新規のプログラムです。うちわの簡単な歴史や部分名称、製作工程の解説を聞いた後、竹でできた既成の骨組みを利用してうちわを作っていきます。どの子ももちろん初めてうちわ作りを体験するわけですから、苦四苦八苦の連続です。それでも自分だけオリジナルうちわが完成すると、得意げに大きく扇ぎながら風を受けていました。

これら様々なプログラムは、館職員だけでは困難なものです。そこで、準備の段階から博物館市民ボランティアに、また当日の受付や体験支援を近隣の小・中学生のジュニアボランティアにもお手伝いしていただいています。また、教育普及担当の職員だけでなく他の担当職員も子どもたちの指導に携わっています。このような様々な人とのふれあいは、土曜体験教室のもう一つのねらいでもあります。

土曜体験教室は、市内の小・中学生はもちろんのこと、近年は他市町村の子どもたちや大人の方々も多く利用されるようになってきました。少しでも博物館へ来館する機会を増やし、歴史や文化財に対する興味・関心を高めていきたいと思います。これからも、楽しい体験活動が提供できるよう内容の充実を図っていきたいと考えています。

（教育普及担当　井口修一）

# Information

平成20年度の博物館行事です。（3月まで）

## 講　座・教　室　etc.

●…一般向け事業　開催日　講座名　内容　申込開始日
○…子ども向け事業

### 1月

17(土)～　第19回ミニ展『むかしの勉強・むかしの遊び』

○17(土)　土曜体験教室
まゆ玉飾りを作ろう　1/6

○24(土)　土曜体験教室
昔の消防体験　当日先着

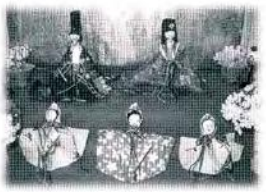
●31(土)・2/1(日)　kawagoe・フォト・ぶらり
～初心者のためのデジカメ建物写真入門～　1/7

### 2月

第19回ミニ展『むかしの勉強・むかしの遊び』

○14(土)　土曜体験教室
昔の道具を使ってみよう　当日先着

○21(土)　土曜体験教室
おひなさまを作ろう　2/3



●8・15・22(日)　博物館歴史講座
川越の近世　2/1

### 3月

～1(日)　第19回ミニ展
『むかしの勉強・むかしの遊び』

28(土)～　第32回企画展
『諸願成就　だるまさん大集合』

○7(土)　子ども博物館教室
はにわの不思議　2/4

○14(土)　土曜体験教室
和紙作りに挑戦　3/1

○21(土)　土曜体験教室
本丸御殿ただいま修理中
～工事の現場をのぞいてみよう～　3/3

※変更の可能性もあります。申込方法も含め、詳細については「広報川越」またはホームページを御覧ください。お問い合わせは博物館まで。

土曜体験教室は、午前10時～11時30分と午後1時30分～3時30分の時間帯で行います。

## 第19回ミニ展

# むかしの勉強・むかしの遊び

平成21年1月17日(土)～3月1日(日)

カチッとひねれば、ポッと火がつくガスコンロ、キュッとひねれば、ジャーッと水が出る水道。今では簡単に使えるガスも水道も、100年くらい前はどうだったでしょう。コンロではなくカマドでの煮炊き、水道ではなく井戸から汲んだ水を使っての洗い物。毎年恒例になりました「むかしの勉強・むかしの遊び」展では、むかしの台所を再現してみました。みなさんの家のキッチンとどこが違うか、何が便利になったのか比べてみましょう。

## 利用の御案内

◆入館料

| 区分 | 博物館 | 川越市蔵造り資料館 | 共通入館(観覧)券 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | •博物館<br>•美術館 | •博物館<br>•蔵造り資料館<br>•美術館 | •博物館<br>•蔵造り資料館<br>•美術館<br>•まつり会館 |
| 一般 | 200円<br>(160円) | 100円<br>(80円) | 300円 | 370円 | 600円 |
| 大学生<br>高校生 | 100円<br>(80円) | 50円<br>(40円) | 150円 | 180円 | 400円 |

※(　)内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合

◆開館時間　午前9時から午後5時まで（ただし入館は午後4時30分まで）

◆休館日　月曜日（休日の場合は翌日の火曜日）
第4金曜日（休日を除く）年末年始（12月28日～1月4日）
館内消毒（6月下旬）　特別整理期間（12月下旬）
＊開館時間・休館日は、博物館・川越市蔵造り資料館とも原則として同じ
（館内消毒・特別整理期間は博物館のみ休館、蔵造り資料館は1月2日から開館）

### 交通案内

東武東上線・JR川越線　川越駅より
または西武新宿線　本川越駅より、
・東武バスにて「蔵のまち経由」乗車札の辺バス停下車徒歩8分、または「小江戸名所めぐり」乗車博物館前バス停下車徒歩0分
・イーグルバスにて「小江戸巡回バス」乗車博物館・美術館前バス停下車徒歩0分
※御来館の際は、なるべく電車、バスを御利用ください。

**川越城本丸御殿は保存修理のため、平成20年10月21日から平成23年3月(予定)まで休館しています。**

**12月**

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

**平成21年 1月**

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

**2月**

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |

**3月**

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

※●印は2館休館(博物館、蔵造り資料館)、●印は1館休館(博物館)

### 編集後記

毎年、12月1日の市民の日にちなんで博物館では、「わたしたちの川越を描く美術展」を開催します。今年で20回目という節目ということもあり、市内小・中・養護学校から寄せられた281点の作品中から、入賞・入選作品121点を展示しました。子どもたちの思いや願いにあふれた作品が展示された博物館ギャラリーは、いつもの博物館と趣が変わり、明るく元気いっぱいな子どもたちの声が聞こえてくるような感じがしました。


発行日　平成20年12月25日　　発　行　川越市立博物館


〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1　@ 049-222-5399　FAX 049-222-5396
Eメール　hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp
ホームページ http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/